



糖尿病ワンポイントアドバイス「インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを打ちましょう。」	1ページ
こんなことしてます三重病院レポート／「今月のイチオン図書」／福祉情報・重症心身障がい児(者)福祉はどうなるの?—その2—	2ページ
院長室だより「昨年から始まったヒトT細胞性白血病ウイルス(HTLV-1)総合対策」	3ページ
植物を探せ!vol.23／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

糖尿病 ワンポイントアドバイス

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを打ちましょう。

★今回は、糖尿病の方に推奨されている、777チンのお話です。★

23価肺炎球菌777チンについて、御存知でしょうか。

糖尿病の方や、65歳以上の高齢者に勧められている、肺炎球菌という微生物による肺炎を予防するためのワクチンです。予防接種というと、子供が打つものだと思っている方も多いかもしれませんが、糖尿病の方や、高齢の方は肺炎にかかりやすくなり、重症化しやすく、中には亡くなられる方もいます。肺炎球菌は、健康な人でも鼻やのどからみつかる菌ですが、抵抗力が弱まると肺炎をはじめ、髄膜炎・敗血症・中耳炎などを引き起こします。特に肺炎は日本人の死因の第4位を占め、肺炎球菌は、肺炎の原因となる微生物の中でも、30～40%と最も頻度が高いうえに、重症化しやすく、最近ではペニシリンなどの抗生物質が効きにくい肺炎球菌が増加し、治療に苦勞するケースが増えています。

インフルエンザ777チンとの併用が効果的です。

2009年の新型インフルエンザウィルスの世界的な流行により、改めてインフルエンザワクチンの必要性を認識された方も多いと思いますが、糖尿病や、高齢で免疫力が低下された方にとっては、インフルエンザワクチンだけで重症化を抑制する事は難しいとされています。インフルエンザウィルスに感染すると、気道粘膜が障害され、他の細菌が侵入しやすくなります。その中でも特に、肺炎球菌に感染する頻度が高く、インフルエンザウィルス単独の感染症よりも、続いて起こった肺炎球菌の感染によって死亡されるケースが多いことがわかっています。従って、インフルエンザワクチンと、肺炎球菌ワクチンを両方打つ事が重要です。

副作用はありませんか？

肺炎球菌ワクチンは日本で発売されてから23年が経ちますが、死亡例などの重篤な副作用は1例も無く、

高齢の方でも安心して打っていただけます。私たちが行った研究でも、502名がインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを接種されましたが、打ったところに赤みが強く出るといった局所の副作用が数人いただけで、インフルエンザワクチンと同様に安全な薬剤であることがわかっています。

費用はいくらかかりますか？

三重病院では、津市にお住まいで65歳以上の方の接種費用は、インフルエンザワクチン1,200円、肺炎球菌ワクチン7,700円です。助成金額は自治体によって異なりますので、お住まいの自治体の窓口にお問い合わせみてください。

インフルエンザワクチンは毎年接種する必要がありますが、肺炎球菌ワクチンは1回の接種で約5年間有効です。65歳以上の方で、まだ接種していない方、肺炎球菌ワクチンを接種しに来てください。また、今年も、インフルエンザ流行前には忘れずに、インフルエンザワクチンを接種してください。

インフルエンザワクチン、
23価肺炎球菌ワクチン接種の
お問い合わせ先

インフルエンザワクチンは、
例年、流行前の10月から予約
を開始しています。

一方、肺炎球菌ワクチンは、1年中いつでも打つ
ことができます。

接種を希望される方は、いずれも予約が必要になりますので、当院の予防接種外来までお問い合わせください。

お問い合わせ
ご予約

三重病院／059-232-2531
予約専用／059-232-1820
059-232-1818

(内科 丸山 貴也)